

（特選）

☆曾我の里犬に引かれて梅見かな

かつを

この句の眼目は中七の「犬に引かれて」である。犬にひかれているのは、老人であろう。どんどんと前に進んでゆく犬、老人の手綱さばきが目に浮かぶ。

・水温む小さき堰の水の音

繁好

早春の用水路の堰を落ちて行く水の音がかすかに聞こえる。視覚・聴覚で詠み止めた優れた写生句。

・庭あれば梅咲かせけり曾我の里

進

下曾我の古民家の庭には、梅が満開。隣の民家の庭にも その又隣の民家の庭にも梅が咲いている。見た景をそのまま素直に写生した秀句。

（入選）

・からからと風車回るや梅二月

かつを

・群青の空より梅の垂れけり

進

・青空に梅満開の曾我の里

忠男

・のどけしや犬も大きな欠伸して

忠男

・梅東風や小さき社に揺るる四手

繁好

（佳作）

・梅の香や富士を彼方に集ふ友

けんじ

・茶屋出ればほのと明るき梅の中

一江

・せせらぎのほがらほがらや梅二月

進

・観梅や箱根連山遥かなる

一江

・枝垂れ梅守るが如く家敷神

繁好

・形良き梅を背にしてポーズとる

忠男

・薄日さしかすみて青し富士の嶺

きよし

・春めくや寄生木浮かぶ宗我神社

けんじ

・老幹にいのちの通ふ梅林

一江

・紅白梅しだれ明るき城前寺

一江